

城北



| | |
|------------|-------|
| 令和4年9月1日現在 | |
| 総世帯数 | 3,769 |
| 総人口 | 7,858 |
| 男 | 3,769 |
| 女 | 4,089 |



城北地区緑化推進委員協議会 会長 東 靖人

今年度より緑化推進委員協議会会長を務めます、東靖人です。この事業は、松本市公園緑地課に事務局を設置し、地域の緑化を目的に、市民が主体となった緑化活動に対し花苗等を配布する事業です。対象は、地域住民が主体となつて、公共用地区内を行う植栽であり、地区に対して補助があります。城北連合会では、この補助を活用し令和4年度は5町会(蟻ヶ崎北・新田町・徒士町・沢村・西町)と城北公民館に配布し皆様の目を楽しませたり心を癒していたいております。花苗を配布しますが、各町会において多くの町民の皆様がポ

ランテアで植栽作業をしていただいており、その労力に対して心より感謝申し上げます。そして、この事業が永く続き、平和で美しく住みよい城北地区となります様願っております。城北地区人権啓発推進協議会主催 **平和を語る会** 8月9日城北公民館大会議室において日本チェルノブイリ連帯基金理事長、神谷さだ子さんによる「ロシアの侵攻を受けたウクライナ難民への支援活動について」の講演があり32人の参加がありました。神谷さだ子さんは今年の7月に前任の鎌田實さんより日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)の理事長を引き継いでいます。まずウクライナの歴史とロシア思想史の関係、現在のロシアの軍事侵攻に至る事案の解説がありました。JCFは1991年に旧ソ連の



▲講演される神谷理事長

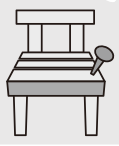


▲周辺諸国の様子も交えた講演

チェルノブイリ原発事故を受けて設立し、医療物資の提供の他医療関連の支援をしてきています。2月24日のロシアによる侵攻もまさかという気持ちでいてその後は現地の人々の安否が把握しきれないという状況で緊張感が続いていました。3月にはスロバキア・ハンガリー国境にあるウジホロドのカトリック教会と連絡が取れて支援金の送付ができるようになりました。現在もウクライナより避難された方々への援助としてポーランドの避難所等に学用品やボール等を届ける活動を続けています。今月で侵攻が始まって半年経過しましたが未だに終わる気配が見えてきていません。今後は生活物資等の支援の他に爆撃音に緊張している子どもたちのケアを含めた活動を進めていこうと思っております。「皆様からの応援をお願いすると共に一日も早くこの戦争が終わることを希望します。」と語ってくれました。

医療支援活動から語る ウクライナ情勢の真実

7月のふれあい健康教室では、蟻ヶ崎台町会の松本大学学長で、前松本市市長の菅谷昭さんが「スラブ族の人々と関わつて」と題し、ウクライナ情勢などについて講話されました。まず、大爆発を起こしたチェルノブイリ原発事故の現場を5年後に訪れ、恐ろしさを目のあたりにしながら医療支援活動した実話。汚染された建物を石棺で覆つてはあるが、寿命は100年といわれる高度放射能汚染の怖さについて語られました。次にロシアのウクライナ軍事侵攻についての本題に入り、東スラブ族の三兄弟の性格の違いについて興味あるたとえ話がありました。ある会議で座っていた椅子に釘の頭部分が出ていたため、徐々にお尻が痛くなつてきました。そのような時、ロシア人ならば、凄いい形相で、カマカセにその釘を手で引き抜いてしまふ。ウクライナ人ならば、釘抜で釘を抜き、曲がつた部分



分をまっすぐに直し、後でその釘を売る。ベラルーシ人ならば、痛くても会議終了まで、じつと我慢している。同一民族ではあるが、現在はそれぞれ共和国であり、特色ある国民性になっています。東スラブ民族を統一して再びソビエト連邦復活を狙っているとされる、プーチン大統領の無差別軍事侵攻は決して許されるものではないが、NATO西側諸国の対応についても一考を要するのではないかと、一つ間違えれば「窮鼠猫を噛む」ということもあり得るので、スラブ族に関する政治的背景を知っておくことも不可欠であると結ばれました。マヌコミでしか実態を知ることができない我々にとって、とても興味深い意味深なお話をお聞きし、勉強になりました。



▲講演される菅谷学長

ぐるっと城北 施設訪問

〜 蟻ヶ崎

デイサービスセンター

蟻ヶ崎デイサービスセンター所長の、本沢行子さんに聞きました。

蟻ヶ崎団地の東側に、蟻ヶ崎デイサービスセンターがあります。ヒマラヤ杉の大きが目印です。平成11年4月設立。平成14年4月以降、経営母体をJA長野とする、社会福祉法人ジェイエー長野に管理委託されました。

職員21人、登録利用者数80人、1日平均利用者数20人弱、城北地区以外でも高立、山辺の方も利用しています。

介護が必要な方の在宅生活での自立のお手伝い、リハビリ、家族の介護負担の軽減を目的としています。鹿教湯病院と連携して、月に数回、リハビリの先生による専門的な個別指導も行っていきます。全員で行うボール体操、テレビ体操、

運動レクリエーションによる上肢の運動。指先の運動では、貼り絵等も行っていきます。



◀所長の本沢さん



▲大きなヒマラヤ杉が目印!

最近では、地域貢献として、地域包括支援センターの方の紹介で、隣の蟻ヶ崎団地で始めた「いきいき百歳体操」に「十分間脳トレ運動」を所長、職員が交代で出向く、という活動も始めました。

今年4月に赴任した若い所長の本沢さん。「蟻ヶ崎デイサービスセンターを知ってもらおうことが大事」と話され、その意気込みが垣間見られました。

夏休み けん玉教室



8月5日、けん玉チームZuku Kendamas代表の原佑輔さんに大人・子ども20人がけん玉を習いました。

最初は、大皿に乗った玉を落とさない様、座った膝の下をくぐらせたり、ケンで玉をすくったり、けん玉に慣れてから大皿に球を乗せる技の練習に入りました。

簡単なようで簡単ではない! もしもカメよりの歌に合わせて大皿から中皿に交互に乗せていく技は、小学生は学校でもやっていそうでリズム良く上手に

できます。大人の私達は一回でも皿に乗ったら大喜び! このできた喜びがうれしくて笑顔となり、免疫力を高めてくれます。そして集中力がつきストレスを解消してくれます。小学生から高齢者まで世代を超えて一緒に楽しむけん玉は、足腰をよく使い、とにかく健康的。30分間のけん玉は、30分のウォーキングに相当するとか。

上手な子ども達は、けん玉検定にも挑戦。そして先生の見事な技には感嘆! 拍手! 先生は皆で楽しみ気持ち一つになる大切さを話されました。最後に全員が輪になり隣の人の玉をすくう、たこやきゲーム、ケンを一本角のユニコーンに見立てて、落とさないよう体を動かすミニゲームで盛り上がりました。良いことづくめのけん玉、皆さんも楽しみましょう。



▲世代を超えて楽しみました♪



◀先生の技には感嘆!

城北の夏



◀徒士町会 セタまつり町会を挙げての準備!



◀沢村町会 青山様・ぼんぼん



◀蟻ヶ崎東町会 青山様・ぼんぼん



◀白金町会 納涼祭 蟻ヶ崎高校の書道パフォーマンス



◀蟻ヶ崎東町会 子ども夏祭り